

7月		8月			9月			10月	
下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	
堆肥散布			土作り肥料散布			基肥散布			
			種子の準備			植え付け		除草剤散布	

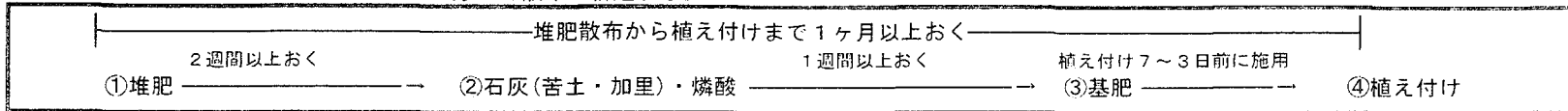
1. 品 種：福地ホワイト

2. 畑の準備

- (1) 日当たり良好及び病虫害発生のないほ場を選ぶ。
- (2) 種子の増殖ほ場は、一般ほ場とは500m以上離れた場所へ設置する。
- (3) 土壌診断を行い、処方せんに従い土壌改良を実施する。
- (4) 耕土は深く、排水を良好にする。〔排水対策：プラソイラ・サブソイラ・明渠・高畝等〕
- (5) 緑肥は、少なくとも植え付け1ヶ月前までに鋤込み、石灰窒素40kg/10aを散布する。
- (6) 強風に備え、防風ネットを準備する。

3. 施肥基準（10a当たり）

土作り肥料・堆肥及び肥料は、種類ごとに分けて散布・耕起する。



土作り肥料施用基準

堆 肥	完熟堆肥（牛糞堆肥2～3t、豚糞堆肥1.0～1.5t、鶏糞堆肥1t未満）いずれかを選択する。		
石 灰	石灰資材・燐酸資材は、土壌診断処方せんに従い施用する。	キングシェル又は、M-10（苦土炭カル）	5～10袋
燐 酸		パワーリン又は、ダブリン特17号	3～5袋
微量要素資材	マルチサポート3号を3袋、全面に散布し土壌混和する。 ※その他微量要素材については、農協へご相談下さい。		
イモグサレセンチュウ対策	農協へご相談下さい。		

全量基肥栽培基準

肥 料 名	施 用 量	N	P	K
CDU燐加安S555(15-15-15)	6～8袋	18.0～24.0kg	18.0～24.0kg	18.0～24.0kg
LPコート100	2袋	8.0kg		
熟畑大玉にんにく(14-14-10)	9～12袋	25.2～33.6kg	25.2～33.6kg	18.0～24.0kg
にんにく専用配合(10-16-8)	12～16袋	24.0～32.0kg	38.4～51.2kg	19.2～25.6kg

全量基肥栽培基準(リン酸・カリ過剰畑専用低PK肥料)

肥 料 名	施 用 量	N	P	K
輝く黄金にんにく620(16-12-10)	8～10袋	25.6～32.0kg	19.2～24.0kg	16.0～20.0kg
大玉プロにんにくL(16-5-5)	8～10袋	25.6～32.0kg	8.0～10.0kg	8.0～10.0kg
にんにく太郎(16-10-8)	8～10袋	25.6～32.0kg	16.0～20.0kg	12.8～16.0kg

4. 種子の準備と消毒

順 番	品 名	倍 数	方 法
1	発芽揃え促進	100倍	2時間種子浸漬
2	チューリップサビダニ	1,000倍	2時間種子浸漬
	ガードホープ液剤	500倍	30分間種子浸漬
3	黒腐れ菌核病	種子重量の0.5～1%	湿粉衣
	イモグサレセンチュウ	種子重量の0.4%	湿粉衣
	イモグサレセンチュウ	種子重量の1.0%	湿粉衣

5. 植え付け

- (1) マルチ張り マルチ張りは、土壌水分の適湿の時に、マルチの効果は、水分保持、地温上昇、肥料の流亡防止、雑草の抑制などである。

用 途	マルチの色	10a当たり必要量
販 売 用	透明・グリーン・半黒	600～700m
種 子 用	グリーン・半黒	

- (2) 栽植距離

うね幅	株間	条間	条数	10a当たり株数	備 考
150cm	15～17cm	25cm	4条	15,686～17,777株	
160cm高うね	15cm	25cm	4条	16,666株	転作田では高うねにする

- (3) 植え付け ・9月下旬～10月上旬までには終える。
・りん片の発根部を下にして、逆や横向きにならないよう指で押し込める範囲内で7～10cmの深さに植え覆土する。

6. 除草剤使用基準(10a当たり)

薬 剤 名	成 分	10a当たり使用量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	成分別使用回数
コンボラル	トリフルラリン	4～6kg	植付前～植付後但し、収穫90日前まで	全面土壌散布	1回	2回以内
	ベンディメタリン					1回
ゴーゴーサン細粒剤F	ベンディメタリン	4～6kg	植付前(マルチ前) 植付後(雑草発生前)但し収穫60日前まで	全面土壌散布	1回	1回
ゴーゴーサン乳剤30	ベンディメタリン	300～500ml	植付前(マルチ前) 植付後(雑草発生前)但し収穫60日前まで	全面土壌散布	1回	1回
トレファノサイド粒剤2.5	トリフルラリン	5kg	植付前 植付後、春期中耕除草後、但し収穫90日前まで	土壌表面散布	2回以内	2回以内
						2回以内
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	300ml	植付前 植付後、春期中耕除草後、但し収穫90日前まで	土壌表面散布	1回	2回以内
ロックス	リニュロン	100～150g	植付前(マルチ前)(雑草発生前) 植付後(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	1回
アクチノール乳剤	アイオキシニル	100ml	生育期但し収穫30日前まで(雑草生育初期)	全面散布	3回以内	3回以内
ブリグロックスL	ジクワット	600～1000ml	播種前又は植付前 畦間処理:雑草生育期 但し収穫3日前まで	雑草茎葉散布	3回以内	3回以内
	パラコート					3回以内
バスタ液剤	グルホシネート	300～500ml	収穫前日まで(雑草生育期植付前又は畝間処理)	雑草茎葉散布	2回以内	2回以内

- 【注意】※マルチが無穴の場合は除草剤散布後3日くらいおいてからマルチ張りする。
※コンボラル粒剤及びトレファノサイド粒剤・乳剤2.5は、収穫90日前なので春は使用しない。
※ゴーゴーサンの総使用回数は細粒剤、乳剤どちらか1回迄とする。(成分別使用回数を守る)
※土壌が乾燥していると効果が劣るので、土壌に適度な湿り気がある時に、作物にかからないように散布する。
※うね間に散布する場合は、散布面積に応じて散布量・薬量を減じる。
※生育期の除草剤散布は風向きに注意し、高温時の散布は薬害の可能性があるので避ける。